

1月14日 No1424

2019年(平成31年)

週刊 1月曜発行

発行人 河村 勝志

平成元年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年間 22,900円+税
(定価) 1部本体 495円+税

循環経済新聞

The Recycling Economy Times

施設は新規で設置している



造粒固化施設では、受け入れた廃棄物（無機性汚泥等）にセメント

各品目に合わせた受入用のピット（各16.0立方メートル）も設置している。

渡辺工コサーサービス（福島県いわき市、渡辺賛治社長、☎024-656-7233）は昨年12月7日、無機性汚泥の造粒固化と有機性汚泥の堆肥化を行う中間処理施設の竣工式を行った。同社として新規となる事業の建設を含めて約10億円を投資している。

造粒固化施設（北川鉄工所製）は処理能力が160立方メートル/日

で「汚泥（無機性汚泥）に限る」「鉄さい（カフミー）・鉄物磨砂・サンドブラスト磨砂およびラグに限る」「ばくじん（石炭火力発電所から発生する石炭灰に限りなく）」を扱うことができる。

造粒固化材と水溶性ボリマーを添加し攪拌・

リマードして强度を持つ再生路盤材

を10日間にわたり発酵させ、堆肥化する。臭気について

は配管を通じて脱臭装置で処理する。すでに

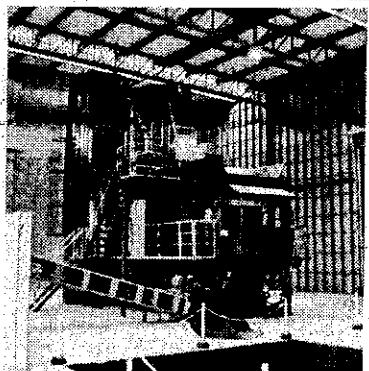
販売展開も含めた形で事業の安定化を図る。

渡辺工コサーサービス

造粒固化・堆肥化を展開
新規事業に約10億円を投資

・再生砂を生産している。
今後は、工コマーケトに認定取得に向けて手続を進めていく他、建設業界を中心のタンク（各20立方メートル）も設置していく。

堆肥化施設では、受け入れた廃棄物（有機性汚泥等）を10日間にわたり発酵させ、堆肥化する。臭気については配管を通じて脱臭装置で処理する。すでに販売展開も含めた形で事業の安定化を図る。



・コテック製は1基で「汚泥（有機性汚泥に限る）」「木くず」「動物のふん尿」を扱うことができる。場内には有機性汚泥等を保管するためのタンク（各20立方メートル）も設置している。

堆肥化施設（中部工計2基）も設置している。飲食業界や小売業界等からの問い合わせが増えており、今後堆肥の販売展開も含めた形で事業の安定化を図る。